

災害から身を守る

大雨や台風の気象情報に注意して 早めの防災対策・避難行動を

初夏から秋にかけては、梅雨前線や台風の影響で、大雨・洪水・暴風などによる自然災害が発生しやすい季節です。

気象庁や市が発表する情報を有効に活用し、早めに防災行動をとるようにしましょう。

「防災気象情報」を活用し
大雨や台風に備えよう

皆さんが早めの避難などの防災行動をとることができるよう、気象庁は「防災気象情報」を発表しています。

激しい気象現象は、ひとたび発生すると命に危険が及ぶおそれがあります。そうした現象が予想される数日前から、気象庁では「警報級の可能性」や「気象情報」を発表し、その後の危険度の高まりに応じて「注意報」「警報」「特別警報」を段階的に発表しています。

今梅雨から防災情報に
警戒レベルが適用されます

ことし3月に国の「避難勧告等に関するガイドライン」が改定され、危険度の高さによって警戒レベルが5段階に分けられました。

ことしの梅雨から以下の警戒レベルを使って災害時に放送される防災無線や安心安全メールなどで防災情報が提供されますので、事前の確認をお願いします。

防災気象情報と警戒レベルなど

警戒レベル	気象状況	防災気象情報や避難情報	住民がとるべき行動
レベル 1	雨が降る前	今後警報級の可能性 大雨の可能性が高くなる	災害への心構えを高める 気象情報に注意し ハザードマップを確認
レベル 2	雨が降り出し 強さを増す	大雨・洪水注意報等	避難行動の確認 災害に備え早めの準備
レベル 3	大雨の数時間～ 2時間程度前	大雨・洪水警報等	高齢者等は立退き避難開始 その他の住民は自主避難 ・避難準備
レベル 4	大雨	避難勧告・避難指示 土砂災害警戒情報	緊急的に立退き避難
レベル 5	数十年に一度の 大雨	大雨特別警報 災害発生情報	既に災害が発生している状況であり 命を守る最善の行動を取る

土砂災害から身を守る

土砂災害から身を守るためには、日ごろからの備えが大切です。最低限知っておくポイントは次の3つです。

①住まいの場所が警戒区域か確認

土砂災害のおそれのある地区は「土砂災害（特別）警戒区域」や「土砂災害危険箇所」に指定されています。自分の家がこれらの地区に当たるかどうかが、県や国土交通省のホームページで事前に確認しましょう。

②土砂災害警戒情報や雨量情報に注意

大雨により土砂災害発生の危険度が高まったときに、県と気象庁が共同で「土砂災害警戒情報」を発表します。テレビやラジオ、県や気象庁のホームページなどで確認することができます。

③土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難、夜に大雨が予想されるときは暗くなる前に避難

高齢者や障がいのある人など避難に時間がかかる人は、移動時間を考えて早めに避難することが大切です。避難場所へ行けない場合は、近くの頑丈な建物の2階以上に避難しましょう。また、普段から避難訓練等に参加し、いつでも避難行動をとれるようにしておきましょう。

土砂災害の前兆現象

土砂災害警戒情報が発表されていない場合でも、次のような異変を感じた時は、直ちに周りの人と安全な場所に避難し、市役所に連絡してください。

土石流	がけ崩れ	地すべり
長雨や集中豪雨によって、石や土砂が水と一緒に下流へ流れる現象。	長雨や集中豪雨によって、斜面が急に崩れ落ちる現象。	地下水などが粘土のような滑りやすい地面にしみこんで、その影響で地面が動き出す現象。
【前兆現象】 ●山鳴りがする。 ●川が急に濁り、流木などが混ざる。 ●土臭いにおいがする。 ●雨が降り続けているのに川の水位が下がる。	【前兆現象】 ●がけから水が湧き出してくる。 ●がけに亀裂が入る。 ●がけから小石が落ちてくる。 ●がけから木の根の切れる等の異様な音がする。 ●家や擁壁、樹木や電柱が傾く。	【前兆現象】 ●沢や井戸の水が濁る。 ●地面にひび割れができる。 ●斜面から水が湧き出す。 ●家や擁壁に亀裂が入る。 ●家や擁壁、樹木や電柱が傾く。

市内の自主避難所と指定避難所

対象地域	自主避難所	指定避難所（避難勧告・指示発令時に順次開設予定）
一の宮地区	●一の宮中体育館	●一の宮体育館 ●一の宮小体育館 ●一の宮中体育館 ●坂梨公民館 ●坂梨体育館 ●古城体育館 ●中通公民館 ●中通体育館 ●荻の草公民館 ●農業構造改善センター ●阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎体育館 ●かんぼの宿阿蘇 ●国立阿蘇青少年交流の家
阿蘇地区	●農村環境改善センター（※） ●阿蘇西小体育館	●阿蘇体育館 ●農村環境改善センター（※） ●阿蘇中体育館（※） ●旧深葉分校 ●山田体育館 ●阿蘇小体育館 ●乙姫体育館 ●阿蘇西小体育館 ●尾ヶ石東部体育館（※） ●鷲の石公民館 ●今町公民館 ●阿蘇市コミュニティセンター ●赤水公民館 ●永草公民館 ●狩尾1区公民館 ●狩尾2区公民館（※） ●跡ヶ瀬コミュニケーションセンター（※） ●旧JA阿蘇尾ヶ石支所
波野地区	●波野保健福祉センター	●波野体育館 ●波野公民館 ●波野保健福祉センター ●波野中体育館 ●波野小体育館 ●やすらぎ交流館 ●道の駅波野「神楽苑」 ●農村婦人の家 ●郷土芸能伝承館

（※）の避難所は九州北部豪雨災害と同等以上の浸水のおそれがある場合は利用できません。

雨や風が強くなる前に 情報収集や避難の準備を一

防災対策には情報収集が大切です。現状を把握し危険を察知して避難のタイミングを逃さないことが重要です。

また、避難するときに「何をどれだけ持っていくか」とっさに判断できるものではありません。災害に備えて、非常時に持ち出すものは日頃から用意しておきましょう。



携帯電話やパソコン、テレビから入手できる防災情報

阿蘇安心安全ネットワーク	熊本県防災情報ホームページ
阿蘇地域の災害情報をいち早く携帯電話にメールでお届けします。 	県内の危険箇所、警戒情報、気象情報、土砂災害危険度情報等を確認できます。 <input type="text" value="熊本県防災"/> <input type="button" value="検索"/>
お知らせ端末告知情報	Yahoo! 防災速報
市の『お知らせ端末』に配信される告知情報をスマートフォンでも見ることができます。 	地域を設定するだけで災害発生時や台風接近時などに避難所開設情報や注意喚起の情報を配信します。 スマートフォンで利用できるアプリ版と携帯電話やパソコンにメールでお知らせするメール版があります。  
NHK 防災情報	
テレビで確認できるNHKの防災情報です。NHKでリモコンの「dボタン」を押す→「防災の生活情報」を選択。	



非常持ち出し品

避難するときにサッと持ち出すものです。下記の一覧を参考に、家族構成を考えて準備しておきましょう。持ち出し品に不足がないか、にチェックを入れて確認しましょう。

貴重品類

- 小銭
- 預金通帳・カード類
- 印鑑
- 健康保険証・免許証等(コピー)

避難用具

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 予備の乾電池
- レジャーシート

救急用具

- 救急セット
- 常備薬
- 生理用品・紙おむつ

衣料品

- 下着・靴下
- 防寒具
- タオル
- 雨具

生活用品

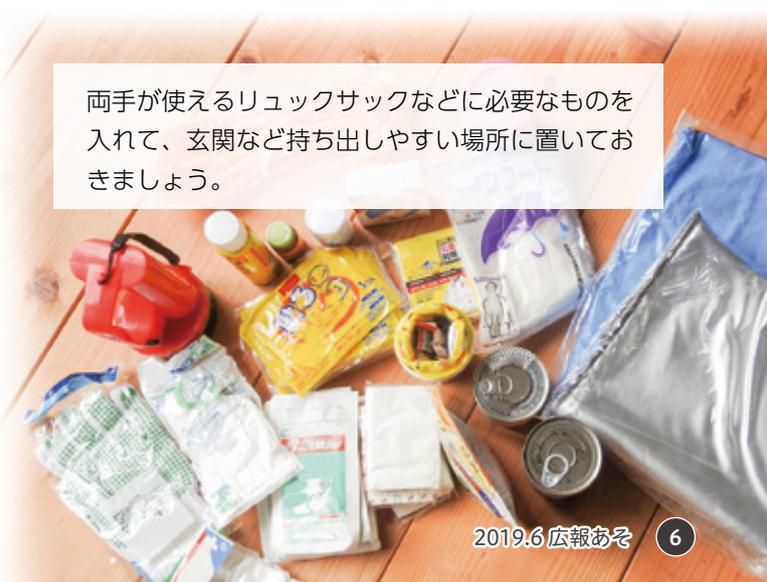
- 厚手の手袋
- 毛布
- ライター・マッチ
- ナイフ・缶切り
- ウェットティッシュ

非常食品

- 乾パン・クラッカー
- 缶詰・レトルト食品
- 栄養補助食品
- アメ・チョコレート
- 飲料水
- 粉ミルク・ほ乳びん

※最低3日間過ごせる食糧を準備しましょう。

両手が使えるリュックサックなどに必要なものを入れて、玄関など持ち出しやすい場所に置いておきましょう。





阿蘇山の火山活動が活発なときは 火山ガスや降灰に注意を一

阿蘇山の火山活動が活発なときは、風向き・風速・天候などの気象条件により、ところによっては有毒な火山ガスや火山灰が流れてくる場合があります。気象情報等を確認して対策をしましょう。

阿蘇山の噴火は、規模によって対応が異なります。事前に噴火警戒レベルごとの行動を確認しておきましょう。

降灰予報を確認しよう
テレビやラジオ、気象庁のウェブサイトなどで、阿蘇山の噴火警戒レベルが上げられたことや降灰予報を確認したら、被害の予防や軽減につながるよう次のような対策をとりましょう。

噴火後	噴火前
気象庁のウェブサイトなどで6時間先までの降灰量を確認する	テレビやラジオ、新聞の天気予報などでその日の降灰範囲を確認
【対策】 ●外出を控える。 ●どうしても外出するときは、傘やマスクを用いる。	【対策】 ●降灰に備え、窓を閉める。 ●マスクや傘を準備する。 

火山ガスには濡れタオル

火山ガスは、有毒な二酸化硫黄を含んでいて、空気より重く腐敗した卵に似た刺激臭があります。

火山ガスの臭いを感じる場合は、タオルなどを水で濡らして口や鼻を覆いましょう。



阿蘇山噴火警戒レベルごとの立入規制や対応など

予報警報	噴火警戒レベル	火山活動の状況	立入規制区域	登山者・入山者等への対応	住民の行動
噴火警報	5 避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	噴火によって影響が認められる居住地域	登山禁止や入山禁止等危険な地域への立入規制。	危険な居住地域からの避難等が必要。
	4 避難準備	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される。			警戒が必要な居住地域での避難準備。災害時要援護者(*)は避難等が必要。
火口周辺警報	3 入山規制	噴火によって居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす可能性あり。	火口から概ね半径2km～4km圏内	火口周辺への立入等規制等。	通常の生活。状況に応じて災害時要援護者(*)の避難準備。
	2 火口周辺規制	噴火によって火口周辺に影響を及ぼす可能性あり。	火口から半径1km圏内		通常の生活。
噴火予報	1 活火山であることを留意	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出などが見られる。	急激な活動の高まりがみられる場合、火口から半径1km圏内	濃霧や火山ガス濃度が高い場合など火山活動状況に応じて火口周辺への立入規制等。	
			規制なし	火口見学可能。	

(※)は高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦、傷病者、日本語が不自由な外国人といった災害時に自力で避難することが困難な人

地域の生命・財産を守る

阿蘇市消防団の幹部団員を紹介します



団長 高日 龍治

団長あいさつ

日頃から、消防団活動にご理解とご支援をいただきありがとうございます。うございます。

阿蘇市消防団は、12分団740人の団員で組織されています。すべての団員が本業を持ちながら「地域の安全は自分たちが守る」という強い使命感をもって日々活動しています。これからも地域の皆さんと連携しながら安全に安心して暮らせる地域づくりに向けて頑張っています。

消防団に入団希望または興味のある人は地域の消防団員までご連絡ください。私たちと一緒に活動しましょう。

 <p>女性消防班長 高見 由紀</p>	 <p>副団長 波野地区 古庄 法彦</p>	 <p>副団長 阿蘇地区 家入 靖幸</p>	 <p>副団長 一の宮地区 木村 鶴雄</p>
 <p>第4分団長 古城地区 井 敬蔵</p>	 <p>第3分団長 坂梨地区 坂本 竜一</p>	 <p>第2分団長 東区、分区、古神区、西区 服部 英彦</p>	 <p>第1分団長 町区、塩塚、北区 吉田 昭義</p>
 <p>第8分団長 山田地区 井野 敬介</p>	 <p>第7分団長 波野北部・中部地区 碓井 東</p>	 <p>第6分団長 波野西部・東部地区 上村 文広</p>	 <p>第5分団長 中通地区 中村 裕治</p>
 <p>第12分団長 内牧地区 石松 信人</p>	 <p>第11分団長 尾ヶ石地区 碓井 敏幸</p>	 <p>第10分団長 永水地区 松村 篤</p>	 <p>第9分団長 黒川地区 松本 頼太</p>



熊本の空から人々を守る 熊本県防災消防ヘリ ひばり

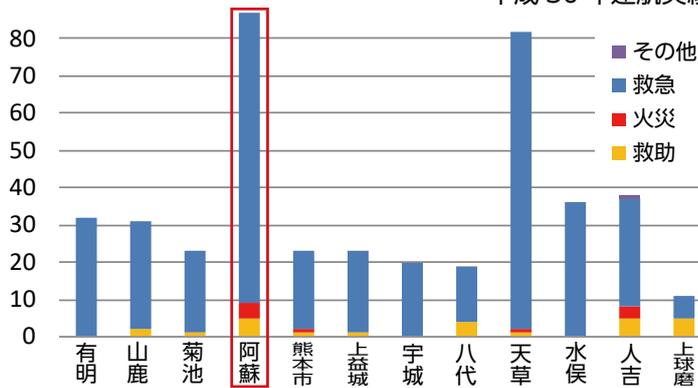
救急搬送や消火活動で活躍している防災消防ヘリ「ひばり」を知っていますか。

「ひばり」は、阿蘇くまもと空港横に基地を置く熊本県防災消防航空隊が運航し、県内の各消防本部から8名が派遣されています。

林野火災などの火災出動、山岳地などでの救助活動、病院間搬送や現場救急要請時の救急出動など多岐にわたって活躍しています。

各消防本部から要請される緊急出動では、低空飛行のほか、指定されたグラウンドや病院のヘリポート等に離着陸することがあります。ヘリは、非常に音が大きいことから、近隣の皆さまにご迷惑をおかけすることがあると思いますが、ご理解とご協力をお願いします。また、ヘリの離着陸時には強風が発生し、不用意に近づくと大変危険ですので、飛散物等には十分ご注意ください。

平成30年運航実績



運航実績

平成30年の緊急運航件数は425件。そのうち阿蘇広域消防本部からの要請は87件で県内最多となっています。

要請があれば全国各地にも出動しており、昨年7月に発生した西日本豪雨災害では、岡山県真備町で2日間5名の救助活動を実施しました。

阿蘇の隊員も活躍中

「ひばり」には、阿蘇広域消防本部の職員と阿蘇市出身の熊本市消防局の職員も搭乗しています。

2人の熊本県消防航空隊への派遣期間は2021年3月まで。危険な任務が多い中、県民の安全を空から守る2人をこれからもよろしくお願います。



隊員 西田耕作 (33歳)
派遣元 阿蘇広域消防本部
出身 小野田



隊長 小山幸治 (44歳)
派遣元 熊本市消防局
出身 三久保